幼児の社会的適応と攻撃タイプ（5）

越中康治・前田健一

Preschoolers' social adjustment and their types of aggression (5)

Koji Etchu and Kenichi Maeda

本研究の目的は，幼児の社会的適応と攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）との関連を検討した一連の研究について，補足的な分析結果を資料として提示することである。本研究においては，第1に，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，3回の調査時期間の関連を明らかにすることを目的とした。第2に，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，同性による評価と異性による評価とが対応しているかを検討することを目的とした。第1目的について，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴は，調査時期全般にわたって概ね安定していたが，男児集団における制裁としての攻撃の評価及び女児集団における影響性の評価に関して，調査時期による違いが認められた。第2目的について，攻撃タイプに比して，社会的適応及び社会的行動特徴の評価では，同性による評価と異性による評価が対応していないことが示された。

キーワード：攻撃タイプ，社会的適応，社会的行動特徴，幼児

問題と目的

これまで，幼児の攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴の関連については，越中・江村・新見・目久田・淡野・前田（2006a, 2006b）において一連の検討がなされてきた。越中他（2006a）では，攻撃タイプと社会的適応との直接的な関連に焦点を当てて検討した結果，挑発的攻撃及び報復的攻撃を示すことが，男児の同性仲間集団における不適応の一因となっている可能性が示唆された。他方，女児においては，挑発的攻撃及び報復的攻撃を示すことと社会的適応との関連は男児ほど明確ではなかった。女児は，仲間を評価する上で，男児ほど挑発的攻撃及び報復的攻撃をネガティブに評価しなかった。また，制裁としての攻撃は，評価者及び被評価者の性別にかかわらず，総じて，仲間からのポジティブな評価と関連していた。攻撃性と社会的適応との関連は，攻撃性の質的相違，評価者及び被評価者の性別によって異なることが示された。また，越中他（2006b）では，幼児の攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）や社会的適応状態を社会的行動特徴などの他の個人要因との関連から，より詳細に検討した。個人要因の諸測度としては，月齢，語彙年齢，社会的コンピタンス，引っ込み思案を用い，攻撃タイプ及び社会的適応状態との関連に

ついて，調査時期と評価者及び被評価者の性別による違いを考慮に入れて検討を行った。

本研究では，越中他（2006a, 2006b）で検討されなかった，同一得点における調査時期間の安定性を検討し，幼児の社会的適応と攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）との関連を検討した一連の研究について，補足的な分析結果を資料として提示する。本研究の第1目的は，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，3 回の調査時期間の関連を明らかにすることである。第2目的は，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，同性による評価と異性による評価とが対応しているかを検討することである。

方　法

参加者及び調査時期

参加者及び調査時期は越中他（2006a, 2006b）と同一である。第1著者が保育士として勤務する東広島市内の保育園の異年齢クラスに所属する幼児を対象として，2004 年 3 月，6 月及び 9 月の 3 回，同一内容の調査を実施した。クラスの人数は，3 月では男児 13 名，女児 14 名であった。その後，男児 1 名，女児 3 名が卒園・転出し，男児 1 名，女児 1 名が入園・転入した結果，6 月では男児 13 名，女児 12 名となった。その後，男児 1 名が転出，男児 1 名が転入した結果，9 月では男児 13 名，女児 12 名となった。各調査時期における平均月齢（月齢範囲）は，3 月では男児 60 ヶ月（50-70 ヶ月），女児 57 ヶ月（49-72 ヶ月），6 月では男児 62 ヶ月（53-73 ヶ月），女児 60 ヶ月（52-73 ヶ月），9 月では男児 64 ヶ月（56-76 ヶ月），女児 63 ヶ月（55-76 ヶ月）であった。

手続き及び得点化

手続き及び得点化の詳細については越中他（2006a, 2006b）と同一である。参加者全員に対して，(1)「写真ソシオメトリック指名法」，(2)「攻撃タイプに関する仲間アセスメント」，(3)「社会的行動特徴（社会的コンピタンス及び引っ込み思案）に関する仲間アセスメント」（前田・片岡, 1993）及び(4)「絵画語い発達検査」（上野・撫尾・飯長, 1991）を個別面接で実施した。2004 年 3 月，6 月及び 9 月の 3 回，同一内容の調査を実施した。手続き及び得点化の詳細については越中他（2006a, 2006b）を参照されたい。

結果と考察

各得点の調査時期間の関連

攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，3 回の調査時期間の関連を明らかにするために，各得点同士について，ピアソンの相関係数を算出した（Table 1 及び Table 2）。同性による評価（Table 1）と異性による評価（Table 2）のいずれにおいても，有意でないものも含め，相関係数は概ね正の値を示している。すなわち，それぞれの得点は，各調査時期にわたって概ね安定しているものといえる。しかしながら，調査時期間で有意な負相関を示している箇所が 2 つある。

Table 1　各得点の調査時期間の相関係数（同性による評価）

	3月と6月		6月と9月		3月と9月	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児
挑発的攻撃	.91 **	.50	.65 *	-.18	.65 *	.24
報復的攻撃	.59 †	.49	.80 **	.57 †	.52	.82 **
制裁としての攻撃	.32	.32	-.23	.24	-.58 †	.65 *
肯定的指名得点	.31	.46	.90 **	.47	.58 †	.45
否定的指名得点	.91 **	.16	.67 *	.36	.49	.62 *
影響性得点	.32	.10	.33	-.56 †	.13	.10
好意性得点	.79 **	.33	.83 **	.66 *	.70 *	.73 *
社会的コンピタンス	.47	.69 *	.63 *	.75 **	.77 **	.87 **
引っ込み思案	.87 **	.17	.66 *	.60 †	.61 *	-.08

注）** p<.01, * p<.05, † p<.10（両側検定）

Table 2　各得点の調査時期間の相関係数（異性による評価）

	3月と6月		6月と9月		3月と9月	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児
挑発的攻撃	.71 *	.41	.14	.56 †	.18	.42
報復的攻撃	.36	.48	.67 *	.01	.58 †	.23
制裁としての攻撃	.59 †	.54 †	.66 *	.88 **	.47	.50
肯定的指名得点	.80 **	.07	.52	.60 †	.37	.59 †
否定的指名得点	.68 *	.42	.22	.14	.79 **	.50
影響性得点	.78 **	.01	.55 †	-.19	.41	.32
好意性得点	.74 **	.34	.36	.48	.58 †	.59 †
社会的コンピタンス	.63 *	.00	.70 *	.54 †	.43	.13
引っ込み思案	.03	-.08	-.08	-.01	-.03	.49

注）** p<.01, * p<.05, † p<.10（両側検定）

第 1 に，制裁としての攻撃得点に関して，男児の同性による評価で，3 月の得点と 9 月の得点とが負相関の有意傾向を示している（r= -.58, p< .10）。すなわち，3 月と 9 月とでは，制裁としての攻撃を示すと評価された者が異なることを意味する。これは，制裁としての攻撃が，3 月及び 6 月においては仲間からの人気度と関連を示さなかったのに対し，9 月においては好意性得点及び肯定的指名得点と正相関，否定的指名得点と負相関の有意傾向を示すようになった（越中他, 2006a）ことと対応している。また，制裁としての攻撃が，3 月では社会的コンピタンス得点との間に負相関の有意傾向を示したのに対して，9 月では正相関の有意傾向を示した（越中他, 2006b）こととも対応している。3 月と 9 月では，社会的コンピタンス得点（r= .77, p< .01），肯定的指名得点（r= .58, p< .10）及び好意性得点（r= .70, p< .05）が正相関を示していることを踏まえると，男児集団では，3 月から 9 月にかけて，当初はコンピタンスの低い者が行っていた制裁としての攻撃を，コンピタンスが高く人気のある者が行うようになったと解釈できる。

第 2 に，影響性得点に関して，女児の同性による評価で，6 月の得点と 9 月の得点とが負相関の有意傾向を示している（r= -.56, p< .10）。これは，影響性得点（及び肯定的指名得点）が，3 月では月齢及び語彙年齢と，6 月では語彙年齢と正相関あるいは正相関の有意傾向を示していたのに対し

て，9月では関連が示されなくなった（越中他，2006b）ことと対応している。越中・中村・前田（2003）は，女児に関して，集団成員の月齢が総じて低い場合（平均月齢：50ヶ月，月齢範囲：43-66ヶ月）には，月齢及び語彙年齢が社会的適応状態に大きく影響することを指摘している。この結果との相違から，集団成員の月齢が高くなるにつれて（本研究の9月では，平均月齢：63ヶ月，月齢範囲：55-76ヶ月），女児の社会的適応状態に及ぼす月齢及び語彙年齢の影響は減少することが示唆される。

各調査時期における攻撃得点間の関連

各調査時期における攻撃得点間の関連について検討するために，ピアソンの相関係数を算出した（Table 3）。相関係数は，評価者及び被評価者の性別によらず，有意でないものも含め，概ね正の値を示している。このことから，3つの攻撃タイプ間の関連は強いといえる。しかしながら，9月における男児の同性による評価では，挑発的攻撃と制裁としての攻撃（r= -.34）及び報復的攻撃と制裁としての攻撃（r= -.48）の相関係数が，有意ではないが比較的高い負の値を示している。これは，Table 1に示されるように，男児の同性による評価の中で，制裁としての攻撃を示すと評価された者が3月と9月とで異なっていたことによるものと考えられる。

Table 3　各調査時期における攻撃得点間の相関係数

	挑発と報復			挑発と制裁			報復と制裁		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
男児（同性評価）	.82 **	.80 **	.74 **	.73 *	.65 *	-.34	.77 **	.66 *	-.48
男児（異性評価）	.36	.44	.56 †	.80 **	.44	.69 *	.45	.75 **	.91 **
女児（同性評価）	.56 †	.67 *	.64 *	.56 †	.74 **	.51	.64 *	.42	.76 **
女児（異性評価）	.64 *	.53 †	.72 *	.16	-.29	.33	.37	-.14	.53 †

注）** p<.01, * p<.05, † p<.10（両側検定）

各得点に関する同性評価と異性評価との関連

各得点に関する同性評価と異性評価との関連について検討するために，ピアソンの相関係数を算出した（Table 4～Table 6）。攻撃タイプ（Table 4）については，男女ともに，有意でないものも含め，概ね正の値を示している。例外的に，9月における男児の制裁としての攻撃では，同性評価と異性評価との相関係数が負の値（r= -.35）を示している。これもTable 1に示されるように，男児における制裁としての攻撃の評価が3月と9月とで異なっていたことによると考えられる。

Table 4　攻撃タイプの同性評価と異性評価の相関係数

	挑発的攻撃			報復的攻撃			制裁としての攻撃		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月	3月	6月	9月
男児	.70 *	.32	.60 †	.84 **	.60 †	.63 *	.62 *	.44	-.35
女児	.63 *	.14	.38	.09	.67 *	.40	.38	.21	.62 *

注）** p<.01, * p<.05, † p<.10（両側検定）

仲間からの人気度の同性評価と異性評価（Table 5）については，男児の否定的指名において3月の得点（r=.76, p<.01）及び6月の得点（r=.68, p<.05）が，女児の肯定的指名において9月の得点（r= .64, p< .05）が正相関を示した。ただし，全体として，仲間からの人気度における同性評価と異性評価とは，必ずしも対応していないといえる。仲間集団における人気度と社会的スキルとの関連を検討する上で，性別の要因を考慮に入れることの重要性（中台・金山・前田, 2002）が改めて示唆される。

Table 5　仲間からの人気度の同性評価と異性評価の相関係数

	肯定的指名得点			否定的指名得点		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月
男児	-.01	.26	.08	.76 **	.68 *	.28
女児	-.13	-.04	.64 *	.48	-.20	.15

注）** p<.01, * p<.05（両側検定）

社会的行動特徴の同性評価と異性評価（Table 6）については，女児の社会的コンピタンスにおいて6月の得点同士が正相関を示した（r=.68, p<.05）。しかしながら，その他の相関は有意でなかった。Table 6から分かるように，社会的コンピタンスの相関係数はいずれも正の値を示しているので，社会的コンピタンスの安定性については，参加者を増やして再検討する必要がある。

引っ込み思案得点では有意な相関はみられなかった。本研究では，引っ込み思案尺度の内的一貫性も低い（越中他, 2006b）ことから，評価者が3つの引っ込み思案項目の意味を多義的に受け取った結果，引っ込み思案得点の安定性が低下した可能性も考えられる。この点についても，別の引っ込み思案項目を使用して再検討する必要がある。

Table 6　社会的行動特徴の同性評価と異性評価の相関係数

	社会的コンピタンス			引っ込み思案		
	3月	6月	9月	3月	6月	9月
男児	.19	.49	.41	.48	-.05	-.38
女児	.24	.68 *	.25	.01	-.33	.02

注）* p<.05（両側検定）

まとめ

本研究の目的は，幼児の社会的適応と攻撃タイプ（挑発的攻撃，報復的攻撃，制裁としての攻撃）との関連を検討した一連の研究について，補足的な分析結果を資料として提示することであった。第1目的は，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，3回の調査時期間の関連を明らかにすることであった。第2目的は，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴のそれぞれについて，同性による評価と異性による評価とが対応しているかを検討することであった。分析の結果，第1目的については，攻撃タイプ，社会的適応及び社会的行動特徴は，調査時期全般にわたって概ね安定していたが，男児集団における制裁としての攻撃の評価及び女児集団における

影響性に関して，調査時期による変化が認められた。第2目的については，攻撃タイプに比して，社会的適応及び社会的行動特徴の評価では，同性による評価と異性による評価が対応していないことが示された。

引用文献

越中康治・江村理奈・新見直子・目久田純一・淡野将太・前田健一 (2006a). 幼児の社会的適応と攻撃タイプ（3） 広島大学心理学研究, **6**, 印刷中.

越中康治・江村理奈・新見直子・目久田純一・淡野将太・前田健一 (2006b). 幼児の社会的適応と攻撃タイプ（4） 広島大学心理学研究, **6**, 印刷中.

越中康治・中村多見・前田健一 (2003). 異年齢集団における幼児の社会的適応―月齢，語彙，社会的行動特徴，攻撃タイプ― 広島大学心理学研究, **3**, 137-145.

前田健一・片岡美菜子 (1993). 幼児の社会的地位と社会的行動特徴に関する仲間・実習生・教師アセスメント 教育心理学研究, **41**, 152-160.

中台佐喜子・金山元春・前田健一 (2002). 幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル―同性仲間と異性仲間からの評価― 広島大学心理学研究, **2**, 151-157.

上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎 (1991). 絵画語い発達検査〔1991年修正版〕 日本文化科学社

謝 辞

本研究にご協力を賜りました保育園の園長先生，保育士の皆様ならびに園児の皆様に深く感謝いたします。